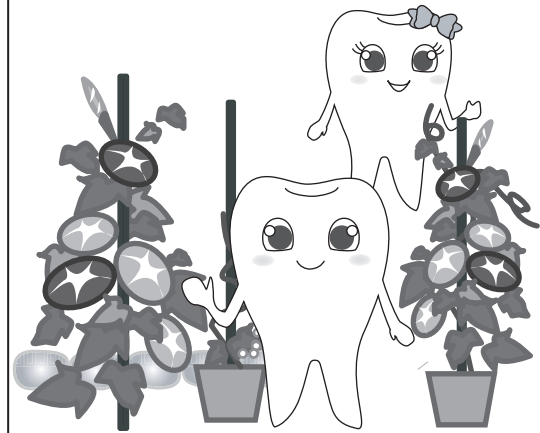


皆さんこんにちは！いかがお過ごしですか？
津谷歯科医院、院長の津谷良です。

厚生省の人口動態調査によると、2011年から2016年までの間、肺炎は死亡原因の第3位でした。2017年に調査方法が変更(死因選択のルールが明確化され老衰が増加)されたことにもない、肺炎は5位に順位を下げましたが、減少しているというわけではありません。肺炎は、細菌やウイルスが肺に入り炎症を起こしている状態のことで、肺炎で死亡する人の94%が75歳以上の高齢者です。また高齢者の肺炎の70%が誤嚥性肺炎によるものと言われていています。高齢者に見られる肺炎は死亡率が高く、発熱・咳・痰等の典型的な症状を訴えないことも多く、治療によって一旦改善しても数カ月間に再発を繰り返すという特徴があります。今月は『誤嚥性肺炎』についてご紹介します。

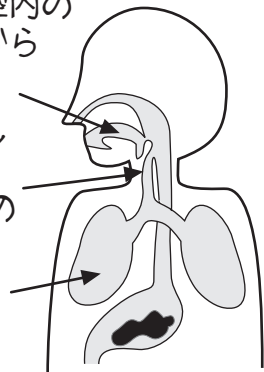


■ 誤嚥性肺炎はなぜ起こる？

誤嚥とは、本来口から食道・胃に入るべき食べ物や飲み物が誤って気管・肺に入ってしまうことです。誤嚥した場合、通常は無意識にむせて排出する咳反射が働きます。ところが寝たきりの高齢者や脳血管障害、神経や筋障害疾患の方では誤嚥しやすい上にこの咳反射が鈍り、気管へ入ってしまった食べ物を排出できずに発症を繰り返す厄介なもので、下記のようなメカニズムで発症します。

【誤嚥性肺炎発症のメカニズム】

- 1 寝たきりや病気が原因で口腔内の清潔が十分に保てないことから口腔内細菌が増殖
- 2 咳反射や嚥下の機能が低下して飲食物が気管に入ってしまう(誤嚥)、その際に口の中の細菌も一緒に気管へ入る
- 3 食事量が減ることで免疫力低下も関与し肺に入った細菌によって肺炎を起こす



■ 早期発見のポイント

肺炎を発症していても、高齢者のように免疫力が低下した状態では、肺炎になった時の生体防御反応である発熱・咳・痰の3大症状が見られないことがあります。そのため受診が遅れ重症化することが多いので注意が必要です。早期発見のポイントは、普段の生活で肺炎と無関係のような下記の所見が見られる場合、肺炎の可能性にあります。


肺炎を疑う所見チェックリスト

- 呼びかけに対する反応がおかしい
- なんとなく元気がない
- だるそうに見える
- ぼーっとしていることが多い
- 食事に時間がかかるようになった
- 食事中や食後にむせる
- 体重が徐々に減ってきた



肺炎は抗生剤による薬物療法が治療の基本で、高齢者の場合30日前後の入院が必要となります。歯科では誤嚥性肺炎予防の対応が可能ですので、次号で詳しくご紹介したいと思います！

◆ 誤嚥性肺炎は口腔衛生環境と摂食嚥下機能が大きく関与しています ◆

口腔ケア新聞の発行にあたって 
ここ数年、外来患者さんやそのご家族から訪問診療のお問い合わせやご依頼を受けるケースがとて増えてきました。小さなご病気されてしまったことがキッカケで、寝たきりになってしまわれたりして、「いつもお元気でいいですね」って話をしていたのに…。そんなことが続いたので、これは本格的に訪問診療に取り組まなければいけないかなって、強く思うようになりました。
そこで取り組みの一環として、要介護者の歯と口に関する情報を地域の介護に携わっている方にお届けしようと考え、口腔ケア新聞を毎月1回発行しています。

津谷歯科医院

診療時間 9:00~12:30/14:00~18:30
(土曜日は16:30まで)
診療科目 歯科 小児歯科
休診日 木曜・日曜・祝祭日
院長 津谷良
岡山市中区海吉1807-14
☎ 0120-779-418 FAX 0120-779-413